■2008年（平成20年）7月11日　内外教育　第3種郵便物認可

中学生の7割以上は無関心

●子ども社会学会が裏サイトへの対応などで学校、生徒調査

日本子ども社会学会（会長・住田正樹放送大学教授）の共同事業委員会はこのほど、「子どものケータイと学校の『学校裏サイト』対応に関する調査」の結果をまとめた。それによると、特定の学校や学級を対象にした非公式なホームページ（HP）、ネット上の掲示板などいわゆる「学校裏サイト」に関連した生徒間のトラブルが、公立中学校の半数で発生していることが分かった。その一方で、中学生の七割以上が学校裏サイトに関心がないと回答したほか、学校裏サイトに書き込みなどをしたことがあるという生徒も約一割にとどまっており、学校裏サイトにかかわっている子供は「世間で言われているよりもはるかに少数」と同委員会は分析している。ただ、男女別で見ると、女子は男子よりも学校裏サイトに関係する割合が高く、同委員会は注意を促している。

対策の柱は危険性の注意喚起

調査は今年二月から三月にかけて、全国の公立中学校の二十分の一を無作為に抽出し、学校調査と中学二年生対象の生徒調査の二つのアンケートを依頼した。このうち学校調査には四十三都道府県の百七十九校（32・1％）が回答。一方生徒調査には、学校調査回答校のうち二十七都道府県六十一校の中学二年生二千二百二十二人（男子千百六十一人、女子千六十一人）が回答した。

まず学校調査の結果を見ると、携帯電話（以下「ケータイ」と呼称）の持ち込みを禁止している学校は98・3％に上っており、ほとんどの公立中学校が校内でのケータイの利用を禁止している。ケータイやインターネットの危険性については81・0％の学校が、学級活動などを通して生徒に指導している。また、教職員への注意喚起のため「時に話題にしている」が64・8％、「重要なテーマとして取り上げている」が35・2％で、合わせるとすべての学校が教職員への注意喚起を行っている。

さらに、保護者に対して、ケータイやインターネットの危険性を「一応呼び掛けている」のは39・7％、「重要なテーマとして呼び掛けている」のは58・1％で、ほとんどの学校が保護者に対しても何らかの注意喚起を行っている。生徒、教職員、保護者に対して、ほぼすべての中学校がケータイとインターネットの危険性について何らかの提起をしていると言えそうだ。

一方、学校裏サイトの開設状況を見ると、「まだ開設されていないと思う」が35・8％、「開設されているらしいがよく把握できない」が30・1％、「内容に問題がないのでそのままにしている」が4・0％、「内容に問題があって困っている」が18・0％、「サイトを閉鎖させたことがある」が11・4％などとなっており、約三割の学校で実際に学校裏サイトに関する問題が生じていることが分かった。

また、過去三年間で学校裏サイトに関連したトラブルが実際に発生したことがあると回答した学校は51・0％と半数以上に上っている。トラブルのほとんどは「生徒間トラブル」で、そのうち一校当たりの発生件数は「三件以下」が約七割を占めているが、中には「十件以上」という学校もわずかだがある。

学校裏サイトへの対応策を取っていると回答した学校は66・1％と七割近くに上っているものの、対応策の内容（複数回答）を見ると、「職員会議で教職員に認識を深めている」が87・7％、「保護者会で注意を呼び掛けている」が86・1％、「保護者にプリントを配布して注意を呼び掛けている」が65・2％、「生徒にプリントを配布している」が64・0％、「特別な時間を設けて生徒を指導している」が41・8％、「裏サイト関連で特別に全校集会を開いたことがある」が26・5％、「裏サイト問題対策の教員を置いている」が23・4％などとなっており、注意喚起のための方策が

大半を占める。

このほか、学校裏サイトに対する今後の対応策への考え方を聞いたところ、「直ちに必要なもの」としては注意喚起や道徳教育の充実などが挙げられている。また、「そろそろ必要なもの」としては専門家による教職員の勉強会、特別な時間を設けた生徒への指導などが挙げられる一方で、「有料の業者による裏サイト監視の委託」「裏サイト問題に対応する教員を置く」「PTAが裏サイトを継続的に監視する」などはいずれも「まだ必要ない」という意見が多かった。

生徒の1割が書き込みで被害

ほとんどの学校がケータイの持ち込みを禁止しているが、生徒調査の結果を見ると、男子の43・6%、女子の58・9%が「自分専用のケータイがある」と回答している。また、ケータイを学校に持っていく生徒は、「いつも」と「ときどき」を合わせると男子が18・8%、女子が22・8%となっており、ケータイ所有者のうちほぼ五人に一人が校則を無視してケータイを学校に持ち込んでいることになる。

ケータイの電話機能とメール機能の使い方を見ると、「ほとんどメール」が22・9%、「メールが多い」が56・3%、「電話とメールが同じくらい」が15・1%などで、圧倒的にメール機能の方を利用している生徒が多い。また、メール機能以外でも「カメラを使う」が85・5%、「音楽を聴く」が83・7%、「音楽等をダウンロードする」が82・6%、「HPを見る」が64・8%、「掲示板を見たり書いたりする」が44・1%、「ブログ（日記風の簡易型HP）を読んだり書いたりする」が40・3%などとなっており、ケータイは電話ではなく、情報端末機器として利用されていることが分かる。

学校裏サイトに関連して、「クラスや学年に（ネット上の）掲示板があるか」と質問したところ、「ある」が17・4%、「昔あったがつぶされた」が4・7%、「知らない」が77・9%となっており、昔あったというものを含めて学級や学年の掲示板は、二割程度の生徒しか存在を認識していない計算だ。

さらに、「悪口を言い合うサイト（裏サイト）があったらどうするか」という質問に対して、「積極的に参加したい」と回答したのは3・5%のみで、「時々のぞいてみるだろう」が24・2%、「一度くらいはのぞいてみるだろう」が25・6%、「関心がないので見ないだろう」が46・7%となっている。

このほか、掲示板の書き込みで「自分が攻撃されたことがある」と回答した者は9・6%と生徒全体の約一割。これらの生徒に「攻撃されて傷ついたか」と聞いたところ、「とても傷ついた」が19・5%、「少し傷ついた」が28・5%、「ほとんど傷つかなかった」が17・0%、「全く傷つかなかった」が34・4%で、半数以上があまり気にしていないことがうかがえる。

逆に、掲示板に他人の悪口を書き込んだ経験があるかどうかでは、「時々書いている」が3・2%、「一時書いたことがあるがやめた」が8・5%、「一度もない」が88・3%となっている。

学校調査と生徒調査の内容を比較すると、生徒よりも学校の方が学年や学級の掲示板の存在を把握している割合が高いとも言える。しかも、学校裏サイトに対して生徒の七割以上がほとんど関心を持っていない上に、掲示板で攻撃された経験のある者は生徒全体の約一割で、そのうちの半数はほとんど気にしていないとも受け取れる。

このような結果を受け、同委員会は「日本中に学校裏サイトが林立し、それに生徒が関心を持ち、アクセスし、それによって生徒がみな心に傷を受けているかのような報道は現実を正しく反映していないのではないか」と疑問を投げ掛けている。

ただし、男女別で見ると、学校裏サイトがあれば「時々のぞいてみるだろう」と回答した者の割合は、男子の18・8%に対して女子は30・1%。また、掲示板で自分が攻撃されたことがあるのは、男子の5・9%に対して女子は13・7%。攻撃によって「傷ついた（とてもと少しの計）」のは、男子の36・8%に対して女子は54・2%と五割を超えており、いずれも男子より高い割合を示している。

同委員会は「思春期の女子の人間関係の複雑さや心理的傷つきやすさは周知のことだが、ケータイの出現で、それが一層加速されているのではないか」と分析している。

（斎藤剛史＝教育ジャーナリスト）

■2008年（平成20年）7月11日　内外教育　第3種郵便物認可